



東海道線・大船駅構内 電車と電化柱が衝突した 申5号 重大事故に関する緊急申し入れを提出!



前面ガラスが大破した当該列車

2023年8月5日、東海道線・大船駅構内において、第9974E列車が走行中に電化柱と衝突する重大な事故が発生しました。運転士ならびに3名のお客さまが怪我をされ、9名のお客さまから気分が悪くなったと申告されています。8月6日8時に東海道線は全面運転再開しましたが、約15万人に影響しました。国土交通省関東運輸局からは、「乗客・乗務員が負傷する鉄道人身傷害事故が発生」「利用者には多大な影響を与えたことは誠に遺憾」とあるように、事態を重く見て「鉄道の安全・安定輸送の確保について(警告)」が発出されました。

列車の前面ガラスは大破し、客室の一部が破損していることなど見ても、運転士やお客さまの命が奪われかねない重大事故であると認識しています。また、国土交通省から重大インシデントに指定され、JR東日本管内に敷設されている約25万本もの電化柱の緊急点検を実施し対策を講じた、2015年4月12日発生の山手線神田～秋葉原駅間の電化柱倒壊事故を彷彿させます。

会社は、8月6日の記者会見にて、謝罪と現時点で判明している事実内容の説明を行いました。事故の原因は調査中としています。職場からは「あれだけの破損で死者が出ていてもおかしくなかった」「電化柱の管理は適切に実施されていたのか」「JR東日本の信頼をこれ以上失ってはならない」などの声が上がっています。

JR東労組はこの間、経営のトッププライオリティである「安全」が、単なる掛け声になっていると言わざるを得ないと警鐘を鳴らしてきました。6月16日に発生した内房線上総湊～竹岡駅間における感電死亡事故から2ヵ月しか経っていないにも関わらず、連続して重大事故が発生していることを重く受け止めています。因みに翌日、ある経営幹部が職場訪問した際、この事故に一切触れなかったことに対して疑問の声も上がっています。

したがって、本事故の徹底した原因究明をもとに真の対策を打ち立て、危機的な状況を乗り越え安全を守り抜くために、以下のとおり緊急に申し入れ団体交渉を行います。

1. 2023年8月5日に発生した東海道線大船駅構内における電化柱衝突事故の原因及び、緊急点検の結果を明らかにすること。また、早急な原因究明のもと対策を講じること。

命を最大の価値基軸に安全第一のJR東日本をつくらう!